



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第8回通常総会議事録

- 第一号議案 議長の選任
- 第二号議案 放送批評懇談会 2011 年度事業報告
- 第三号議案 放送批評懇談会 2011 年度収支決算
- 第四号議案 放送批評懇談会第8期9期役員
- 第五号議案 放送批評懇談会 2012 年度事業計画
- 第六号議案 放送批評懇談会 2012 年度収支予算
- 第七号議案 放送批評懇談会定款変更

放送批評懇談会

2012年6月16日



NPO 放送批評懇談会

第 8 回通常総会 2012

特定非営利活動法人放送批評懇談会

<第 8 回通常総会>

- 開催日 2012年6月16日
- 会場 スパルビル レガシィホール
- 会勢 <正会員>
181名 (入会8名、退会13名)
<維持会員>
132社 (入会3社、退会1社)
- 出席者 33名
飯田みか 石井 彰 入江たのし 碓井広義
小田桐誠 音 好宏 小原道雄 兼高聖雄
川喜田尚 隈部紀生 五井千鶴子 上滝徹也
小林 毅 小見野成一 坂本 衛 桜井聖子
嶋田親一 鈴木嘉一 滝野俊一 田代勝彦
田中典子 千葉健吉 中島好登 中町綾子
丹羽美之 橋本 隆 原由美子 稗田政憲
桧山珠美 福島俊彦 藤田真文 藤久ミネ
渡辺久哲
- 委任状提出者 86名
- 出席予定者と委任状提出者で計119名



NPO 放送批評懇談会

第 8 回通常総会 2012

第一号議案 議長の選任

定款第 27 条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員のなかから、「福島俊彦氏」を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

2011年度事業報告



2011年度総務事業報告

1. 50周年記念事業

記念事業プロジェクトを中心に、①50周年記念出版、②ギャラクシー賞トロフィーリニューアル、③データベース事業を検討、推進しました。

メンバー：音 好宏 橋本 隆 入江たのし 川喜田 尚
隈部紀生 上滝徹也
坂本 衛 嶋田親一 中島好登 永田俊和
藤田真文 藤久ミネ

① 50周年記念出版を藤田真文委員を編集長として、推進しました。

「放送批評」「GALAC」から100本の論文を選定しました（選定委員：市村 元、碓井広義、小田桐 誠、音 好宏、上滝徹也、坂本 衛、中町綾子、丹羽美之、藤田真文、藤久ミネ）。選定委員による選定結果をもとに、編集委員によって具体的な出版物の検討作業を開始しました（編集委員：小林 毅、小林英美、深川 章）。

また、ギャラクシー賞50年史の編集作業も開始しました（深川章委員担当）。

② ギャラクシー賞トロフィーのリニューアル作業を橋本隆委員が担当し推進しました。新トロフィーはデザイナー松永真さんの作品に内定し、試作品の作成に入りました。

③ ギャラクシー賞データベース化事業を川喜田尚委員を中心に推進しました。

2. 志賀信夫賞の選考

第3回志賀信夫賞の選考を行いました。正会員による候補者推薦を受け、選考委員会で選考を行い、東北新社最高顧問の植村伴次郎さんを選定し、6月4日第49回ギャラクシー賞贈賞式で賞状と盾をお贈りしました。

選考委員会：音 好宏（委員長） 橋本 隆 上滝徹也
小田桐 誠 藤田真文



NPO 放送批評懇談会

第8回通常総会 2012

3. 第11回「日韓中テレビ制作者フォーラム札幌大会」
2011年9月22日～24日、日本・札幌で開催された第11回大会「日韓中テレビ制作者フォーラム札幌大会」の実行に、放送人の会、放送番組センターとともにあたりました。この大会に運営スタッフとして事務局員2名を派遣し、また正会員の自費参加者も加えて大会の成功に寄与しました。
大会の運営に関しては、財団法人JKAから助成を受けています。運営経費は特別会計として決算処理を行いました。

4. テレビ番組録画装置「スパイダー」による震災報道記録
テレビ番組録画装置「スパイダー」の機能を利用し、3月11日から7月31日まで、震災・原発報道（テレビ）の記録保存を行いました。一事業体では困難な録画面量であるため、法政大学社会学部など外部の研究機関とも随時協力して作業を行いました。



2011年度出版編集事業報告

1. 本年度は下記のメンバーで運営しました。

| | | | |
|--------|------|------|------|
| 委員長 | 丹羽美之 | | |
| 副委員長 | 飯田みか | | |
| 委員 | 岡田芳枝 | 古賀靖典 | 高瀬 毅 |
| | 滝野俊一 | 中村美子 | 桧山珠美 |
| | 水島宏明 | 山本博史 | 渡辺久哲 |
| 編集スタッフ | 中島好登 | 福島美子 | 高橋秀樹 |

2. 毎月6日に「GALAC」を発行しました。

1) 本年度は下記の特集テーマに取り組みました。

2011年10月号 検証！東日本大震災とメディア
＜後編＞

2011年11月号 原発とメディア

2011年12月号 “韓流”の実力度

2012年1月号 第49回上期ギャラクシー賞

2012年2月号 「番組難民」増殖中！？

2012年3月号 朝8時に夢中！

2012年4月号 地域を創るメディア

2012年5月号 どうなるラジオ、どうするラジオ

2012年6月号 「震災1年」を、どう伝えたか

2012年7月号 決定！第49回ギャラクシー賞

2012年8月号 詳報！第49回ギャラクシー賞

2012年9月号 BS放送局は生き残れるか

2) 発行部数は約4000部を目安としました。

3) NTTレゾナント株式会社が運営するニュースサイト

「gooニュース」(<http://news.goo.ne.jp/>)、及びニフティ株式会社が運営するニュースサイト「@niftyニュース」(<http://news.nifty.com/>)に一部記事の配信を行いました。

4) 「放送批評」「GALAC」の通巻500号を記念して、両誌の全表紙、全目次を放送批評懇談会のウェブサイトに公開しました。



2011年度選奨表彰事業報告

1. 本年度は下記の委員の構成で運営しました。

選奨事業委員長 小田桐 誠

＜テレビ部門委員会＞

委員長 上滝徹也

副委員長 川喜田 尚

委員 石橋さや夏 岩根彰子 小磯 亮 隅井孝雄
高村 裕 田中早苗 戸田桂太 中町綾子
桧山珠美 藤田真文 吉田正樹

＜ラジオ部門委員会＞

委員長 桜井聖子

副委員長 高瀬 毅

委員 石原信和 木原 毅 黄 莉香 近藤倫章
さらだたまこ 武田三千代 田代勝彦
塚本 茂 原 きよ 深井教雄 ペリー荻野

＜CM部門委員会＞

委員長 五井千鶴子

副委員長 稗田政憲

委員 入江たのし 鈴木ゆかり 田家秀樹
田中典子 谷岡理香 本庄雅之 丸茂 巧
茂出木龍太 諸橋泰樹 山川浩二

＜報道活動部門委員会＞

委員長 碓井広義

副委員長 市村 元

委員 今村庸一 小田桐 誠 加来由子 兼高聖雄
鈴木典之 鈴木嘉一 中村正敏 堀木卓也
宮前周司

選奨事業委員会担当事務局 福島美子

2. 第49回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

＜テレビ部門委員会＞

- ・2011年4月から2012年3月まで、毎月選考会を開き月間賞4本を選びました。選考結果を「GALAC」誌上に



NPO 放送批評懇談会

第8回通常総会 2012

番組一覧表および合評形式で発表しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。

- ・2011年9月12日から26日、10月11～14日に、第49回上期自薦作品129本を視聴。10月30日、月間賞（24本）と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。
- ・2012年3月13日から28日まで、第49回下期自薦作品154本を視聴。4月22日、月間賞（22本）と自薦作品の中から、下期入賞作品7本を選出しました。同時に特別賞、個人賞も選びました。
- ・2012年6月2日に「自然科学ドキュメンタリーを語る会」をNHK放送技術研究所 技研講堂で開催しました。

<ラジオ部門委員会>

- ・2011年4月から2012年3月まで、毎月ラジオ委員会を開催してラジオについての合評を行いました。
- ・2011年10月、第49回上期39本の自薦作品を聴取し、10月27、31日に各部門の上期候補作品を選出。
- ・2012年4月、下期25本の自薦作品を聴取し、4月16、17日に各部門の下期候補作品を選出。
- ・4月23日、上期下期をあわせた候補作品の中から入賞作8本を選出し、DJパーソナリティ賞も選出しました。
- ・2011年7月3日にニッポン放送イマジスタジオ、10月2日に日本大学芸術学部録音スタジオAで「入賞作品を聴いて、語り合う会」を開催しました。

<CM部門委員会>

- ・3か月ごとにCMの視聴合評会を開催しました。
- ・2011年10月25日、上期120本の自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出。
- ・2012年4月20日、下期135本の自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出。上期下期合わせた中から13本の入賞作品と特別賞を選出しました。

<報道活動部門委員会>

- ・2011年10月22日、上期6本の自薦作を視聴・聴取し、



- 2本の候補作を選出。
- ・ 2012年4月21日、下期16本の自薦作を視聴・聴取し、7本の候補作を選出。上期下期合わせた中から6本の入賞作を選出しました。
 - ・ 「GALAC」連載ページを委員が分担し、全国各地における報道活動の紹介、各局報道活動への期待、特定のテーマに関する報道活動についての論考などを執筆しました。
 - ・ 2011年11月19日、公開シンポジウム第3回「ギャラクシー賞受賞報道活動を見て、制作者と語る会」を、上智大学文学部新聞学科との共催で実施しました。
3. 2012年6月4日（月曜日）、ウェスティンホテル東京ギャラクシールームにて「第49回ギャラクシー賞贈賞式・懇親会」を開催しました。なお、実行プロジェクトメンバーは次のとおりです。（入江たのし、嶋田親一／中島好登）出席者は報道陣、スタッフも含めて、約680名でした。
4. 2011年6月18日に開かれた総会で承認された「4部門の問題点を洗い出し、改善・改革を進める」との方針を受け、「ギャラクシー賞改革小委員会」を設置しました。座長は選奨事業委員長が務め、メンバーは理事長を含め13人で構成。まず、小委員会の目的、進め方、議題などを確認した後、8回の会議を開き、答申案をまとめました。5月15日の小委員会出席者全員一致で確認した答申案については、5月24日の理事会報告前に欠席者を含めた全メンバーに座長がまとめた文書を示し、了承を求めました。特に異議がありませんでしたので、理事会に報告したところです。



2011年度企画開催事業報告

1. 2011年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成しました。

委員長 藤田真文

副委員長 山田健太

委員 砂川浩慶 永田俊和 中平良磨 藤田高弘

堀木卓也 前川英樹 元橋圭哉

(以上シンポジウム企画担当)

小林 毅 小林英美 深川 章

(以上出版企画担当)

2. 2012年2月28日に都市センターホテル・コスモスホールで、放送批評懇談会シンポジウム2012「“2011”を超えて～放送リ・スタート～東日本大震災、地デジ完了、BS多局化」を開催しました。このシンポジウムは、2011年にあった東日本大震災を、放送ジャーナリズムや地域放送局の意義を再考するきっかけにすること、また、同じく昨年7月の地デジ完全移行後に放送業界が取り組むべき技術的・経営的課題を検討するものでした。

その前後に東日本大震災から一年を回顧する類似のシンポジウムが多かったためか、来場者が117人と昨年度を下回りました。ディスカッションの時間に余裕をもたせ、前後半のセッションの連動性もあり、放送批評懇談会としての情報発信はそれなりにできたのではないかと思います。

3. 出版企画では、放懇の50周年記念事業と連動した書籍、『放送批評の50年(仮題)』の刊行に向けた作業を開始しました。同書は、『放送批評』『GALAC』に掲載された過去の優れた論考・記事を多数取り上げ、各時代の放送の課題、放送批評の問題意識を浮かび上がらせることを目的としています。2011年度は同書に掲載する論考・記事の選定を終え、全体構成のおおまかな見通しを立てることができました。



2011年度マイベストTV賞

プロジェクト事業報告

1. 以下のメンバーで運営しました。
プロジェクトリーダー 滝野俊一
メンバー 石橋さや夏 永田俊和 桧山珠美
事務局 中島好登 久野 明
2. Web会員の登録者は4549名（2012年6月8日現在）。女性が4239名と93%を占めています。
3. 投票を活発化させるために、月間投票は別に「長寿番組」「料理番組」「音楽番組」の特別投票を実施しました。
4. 第6回「マイベストTV賞グランプリ」が決定しました。Web会員4414名に放送批評懇談会の正会員182名が加わり、グランプリの投票にあたりました。さらに2011年度はYahoo! JAPAN/GyaO! と協力し、GyaO! に設けられた特設ページからYahoo! JAPAN IDを使用したWebサイトでのグランプリ作品の投票も同時に行いました（GyaO! の投票者は2481名）。
グランプリは、2011年4月度から2012年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作44本の中から、最大5本までを投票するという方法で決められ（ただし、GyaO! の特設ページWebサイトからでの投票は1人1本のみ）、937票を獲得した「妖怪人間ベム」（日本テレビ）が栄誉に輝きました。
また、投票されたWeb会員の中から1組2名を、プレゼンターとしてギャラクシー賞贈賞式に招待しました。贈賞式では日本テレビのプロデューサーが登壇し、トロフィー、賞状を受け取りました。

第三号議案

放送批評懇談会

2011年度収支決算

収 支 計 算 書

2011年4月1日～2012年3月31日まで（単位：円）

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 |
|-----------------|------------|-------------|-------------|
| I. 収入の部 | | | |
| 1. 会費等収入 | | | |
| 会費収入 | 2,790,000 | 2,478,150 | 311,850 |
| 維持会費収入 | 43,940,000 | 40,465,000 | 3,475,000 |
| 2. 事業収入 | | | |
| 選奨表彰事業収入 | 25,000,000 | 28,271,904 | △ 3,271,904 |
| 企画開催事業収入 | 3,500,000 | 1,641,000 | 1,859,000 |
| 40周年記念収入 | | 12,000 | △ 12,000 |
| 3. その他の収入 | | | |
| 出版編集事業収入 | 5,000,000 | 4,159,001 | 840,999 |
| 広告料収入 | 6,000,000 | 5,189,500 | 810,500 |
| 4. 雑収入 | | | |
| 受取利息 | 0 | 67,662 | △ 67,662 |
| 雑収入 | 0 | | 0 |
| 5. 取り崩し収入 | | | |
| 50周年準備特定資産取崩収入 | 3,500,000 | 268,442 | 3,231,558 |
| 当期収入合計 | 89,730,000 | 82,552,659 | 7,177,341 |
| II. 支出の部 | | | |
| 1. 事業費 | | | |
| 選奨費 | 6,260,000 | 6,262,268 | △ 2,268 |
| 式典費 | 9,700,000 | 9,633,217 | 66,783 |
| 企画開催費 | 2,500,000 | 2,800,288 | △ 300,288 |
| 原稿料 | 6,700,000 | 6,808,548 | △ 108,548 |
| 編集費 | 3,000,000 | 2,906,706 | 93,294 |
| 雑誌印刷費 | 16,950,000 | 16,611,983 | 338,017 |
| 発送費 | 1,730,000 | 1,682,195 | 47,805 |
| 50周年事業費 | 3,500,000 | 268,442 | 3,231,558 |
| 2. 管理費 | | | |
| 給料手当 | 21,600,000 | 21,533,813 | 66,187 |
| 人件費 | 2,000,000 | 1,813,350 | 186,650 |
| 法定福利費 | 3,300,000 | 2,954,981 | 345,019 |
| 福利厚生費 | 150,000 | 233,295 | △ 83,295 |
| 旅費交通費 | 700,000 | 579,980 | 120,020 |
| 通信費 | 1,050,000 | 919,153 | 130,847 |
| 資料費 | 1,000,000 | 1,093,012 | △ 93,012 |
| 会議費 | 250,000 | 319,505 | △ 69,505 |
| 水道光熱費 | 250,000 | 321,981 | △ 71,981 |
| 事務用品費 | 120,000 | 84,142 | 35,858 |
| 消耗品費 | 450,000 | 515,004 | △ 65,004 |
| 備品費 | 520,000 | 433,748 | 86,252 |
| 修繕費 | | 0 | 0 |
| 諸印刷費 | 400,000 | 370,721 | 29,279 |
| 広報費 | 470,000 | 468,765 | 1,235 |
| 支払手数料 | 180,000 | 230,881 | △ 50,881 |
| 賃借料 | 4,000,000 | 3,923,265 | 76,735 |
| 保険料 | 800,000 | 918,156 | △ 118,156 |
| 交際費 | 100,000 | 53,887 | 46,113 |
| 雑費 | 750,000 | 737,386 | 12,614 |
| 諸会費 | 120,000 | 115,644 | 4,356 |
| 租税公課 | 80,000 | 73,200 | 6,800 |
| 退職給付引当金繰入 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| 予備費 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 当期支出合計 | 89,730,000 | 85,667,516 | 4,062,484 |
| 当期収支差額 | 0 | △ 3,114,857 | 3,114,857 |

貸借対照表

2012年3月31日現在(単位:円)

| 科目 | 金 額 | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|
| I. 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 25,041,592 | | |
| 未収入金 | 3,483,500 | | |
| 所有物 | 286,625 | | |
| 流動資産合計 | | 28,811,717 | |
| 2. 固定資産 | | | |
| 賃借権利金等 | 161,202 | | |
| 差入保証金 | 4,099,500 | | |
| 特定資産 | | | |
| 志賀基金 | 100,095,199 | | |
| 退職給付引当金 | 20,104,068 | | |
| 50周年準備引当金 | 4,644,904 | | |
| 固定資産合計 | | 129,104,873 | |
| 資産合計 | | | 157,916,590 |
| II. 負債の部 | | | |
| 未払金 | 4,944,869 | | |
| 前受金 | 2,055,000 | | |
| 預り金 | 469,689 | | |
| 退職給付引当金 | 20,104,068 | | |
| 50周年準備引当金 | 4,644,904 | | |
| 負債合計 | | | 32,218,530 |
| III. 正味財産の部 | | | |
| 志賀基金 | 100,000,000 | | |
| その他の正味財産 | 25,698,060 | | |
| 正味財産合計 | | | 125,698,060 |
| (うち基本金) | | | 0 |
| (うち当期正味財産増加) | | | △ 3,114,857 |
| 負債及び正味財産合計 | | | 157,916,590 |

正味財産増減計算書

2011年4月1日～2012年3月31日まで(単位:円)

| 科目 | 金 額 | | |
|------------|-----------|-----------|-------------|
| I. 増加の部 | | | |
| 1. 資産増加額 | | | |
| 賃借権利金増加額 | 128,961 | | |
| 特定資産増加額 | 46,862 | | |
| 2. 負債減少額 | | | |
| 未払金減少額 | 300,910 | | |
| 50周年引当金減少額 | 268,442 | | |
| 増加額合計 | | 745,175 | |
| II. 減少の部 | | | |
| 1. 資産減少額 | | | |
| 現金預金減少額 | 2,324,081 | | |
| 未収入金減少額 | 43,000 | | |
| 2. 負債増加額 | | | |
| 退職給付引当金増加額 | 1,000,000 | | |
| 前受金増加額 | 330,000 | | |
| 預り金増加額 | 162,951 | | |
| 減少額合計 | | 3,860,032 | |
| 当期正味財産増加額 | | | △ 3,114,857 |
| 前期繰越正味財産額 | | | 128,812,917 |
| 期末正味財産額 | | | 125,698,060 |

日韓中テレビ制作者フォーラム特別会計収支計算書
2011年4月1日～2012年3月31日まで（単位：円）

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 |
|--------------------------|-----------|-----------|---------|
| I. 収入の部 | | | |
| 助成金収入 | 8,616,000 | 8,286,334 | 329,666 |
| 当期収入合計 | 8,616,000 | 8,286,334 | 329,666 |
| II. 支出の部 | | | |
| 1. 日中韓テレビ制作者フォーラム札幌大会運営費 | | | |
| 旅費 | | 1,756,000 | |
| 謝金 | | 84,000 | |
| 機材・備品借上費 | | 1,554,000 | |
| 会場設営費 | | 206,500 | |
| 看板代 | | 304,500 | |
| 制作備品費 | | 469,000 | |
| 通訳料 | | 1,839,884 | |
| 印刷費 | | 632,450 | |
| 映像制作費 | | 1,440,000 | |
| 当期支出合計 | 8,616,000 | 8,286,334 | 329,666 |
| 当期収支差額 | 0 | 0 | 0 |

第四号議案

放送批評懇談会

第8期9期役員



NPO 放送批評懇談会

第8回通常総会 2012

放送批評懇談会 第8期9期役員

- 名誉会長 清水英夫
理事長 音 好宏
専務理事 橋本 隆 (総務担当)
常務理事 上滝徹也
小田桐 誠
藤田真文 (50周年委員長)
理事 飯田みか (出版編集委員長)
藤久ミネ (選奨事業委員長)
碓井広義 (企画事業委員長)
丹羽美之 (選奨事業委員会テレビ部門委員長)
桜井聖子 (選奨事業委員会ラジオ部門委員長)
五井千鶴子 (選奨事業委員会CM部門委員長)
鈴木嘉一 (選奨事業委員会報道活動部門委員長)
滝野俊一 (マイベストTV賞プロジェクトリーダー)
石井 彰
市村 元
入江たのし
川喜田 尚
小林 毅
坂本 衛
嶋田親一
田中早苗
中町綾子
稗田政憲
中島好登 (事務局長)
監事 隈部紀生
鈴木典之
名誉会員 志賀信夫

第五号議案

放送批評懇談会

2012年度事業計画



2012年度総務事業計画

1. 50周年記念事業
50周年委員会と協力し、50周年事業を推進します。
2. 志賀信夫賞
第4回の選考、表彰を行います。
3. 正会員の加入促進
正会員数200名を目標に、加入促進に努めます。正会員の増員によって会の基盤を強め、より多彩な活動を支えます。
4. 維持会員の加入促進
維持会員の増員によって会の財政基盤を強めることを目指します。理事会および財務プロジェクトの協力を得て、一層の拡張に努めます。
財務プロジェクトメンバー：音 好宏 橋本 隆 石井 彰
市村 元 小田桐 誠 永田俊和 信井文夫
堀木卓也 宮前周司
5. 広報の強化
2013年4月の放送批評懇談会50周年に向かって、パブリシティ活動を強化します。関係各社との連携を強化し、ホームページの拡充に努め、プレスリリース他の広報活動をより積極的に行って、50周年の周知に当たるとともに、50周年を機とした会のイメージアップに努めます。
6. 第12回「日韓中テレビ制作者フォーラム・韓国大会」
2012年10月11日～14日、韓国・慶州で開催される第12回大会「日韓中テレビ制作者フォーラム・韓国慶州大会」の実行に、放送人の会、放送番組センターとともにあたります。
この大会に運営スタッフとして事務局員を派遣するとともに、正会員の自費参加者を促し、大会の成功に寄与します。



2012年度出版編集事業計画

1. 本年度は下記のメンバーで運営します。

| | | | |
|--------|------------|------|-------|
| 委員長 | 飯田みか | | |
| 副委員長 | 川喜田 尚 | | |
| 委員 | 古賀靖典 | 鈴木健司 | 高瀬 毅 |
| | 高野美穂 | 田川義博 | 仲宇佐ゆり |
| | 原 由美子 | 渡辺久哲 | |
| | (ほか若干名交渉中) | | |
| 編集スタッフ | 中島好登 | 福島美子 | 高橋秀樹 |

2. 毎月6日に『GALAC』を発行します。本年度の運営方針は以下のとおりです。

- 1) 放送に関わるソフト・ハードの批評を通じて、放送文化の発展・向上に貢献する雑誌を目指します。
- 2) 放送コンテンツの送り手と受け手の双方にアピールし、放送批評の文化を育てることを目指します。
- 3) 選奨事業委員会や企画事業委員会と連携しながら、イベントや出版と連動した誌面展開を考えます。
- 4) これまでの特集と連載という形式を引き継ぎつつ、新しい企画や書き手で誌面の活性化を図ります。
- 5) 発行部数は引き続き約4000部を見込みますが、図書館への働きかけなどで増部数を目指します。
- 6) 記事提供を行うポータルサイトなど、ネットの利用をさらに進め、新規購読者の獲得を図ります。



2012年度選奨表彰事業計画

1. 2012年度は下記の委員構成で運営します。

選奨事業委員長 藤久ミネ

＜テレビ部門委員会＞

委員長 丹羽美之

副委員長 中町綾子

委員 岡田芳枝 河野尚行 滝野俊一 戸田桂太
 桜山珠美 古川柳子 水島宏明 宮崎美紀子
 (2、3名の増員を検討中)

＜ラジオ部門委員会＞

委員長 桜井聖子

副委員長 石原信和

委員 池本孝慈 茅原良平 近藤倫章 紺野 望
 武田三千代 塚本 茂 原 きよ ペリー荻野
 松浦正和 山本 索 (1名増員予定)

＜CM部門委員会＞

委員長 五井千鶴子

副委員長 稗田政憲

委員 秋吉淳一郎 小川幸子 河合良文 草川 衛
 田家秀樹 田中秋夫 谷岡理香 千葉健吉
 本庄雅之 茂出木龍太 山家誠一

＜報道活動部門委員会＞

委員長 鈴木嘉一

副委員長 市村 元

委員 稲塚秀孝 小原道雄 加来由子 兼高聖雄
 河邑厚德 福島俊彦 堀川恵子 堀木卓也
 宮前周司

選奨事業委員会担当事務局 福島美子

2. 第50回ギャラクシー賞(2012年度)の審査、ならびに贈賞式を行います。

3. 2012年度の運営方針は以下のとおりです。

来春の第50回ギャラクシー賞を記念して、より充実し綿



密な選奨活動を企画・実行すると共に、急変するメディア状況のなかで、新たな選奨事業の在り方を、各部門毎に研究・討議して、時代に即応した活動を模索・実験していきたい。

1) テレビ部門委員会の運営

●あらゆる科学・文化・芸術が活発な批評活動によって発展・向上してきたように、テレビ文化やテレビ・ジャーナリズムが発展・向上していくためには、テレビ番組に対する活発な批評活動が必要不可欠です。ギャラクシー賞テレビ部門はそのような批評の創造・発信拠点でありたいと願います。

●ギャラクシー賞テレビ部門には、委員会が優れたテレビ番組を自主的に推奨するユニークな制度があります。各委員が日常的にテレビを視聴し、毎月「月間賞」を選んで「GALAC」に発表します。こうして選ばれた推奨番組と、年2回（上期・下期）の応募番組を組み合わせ、最終的にギャラクシー賞の選考を行います。テレビの日常性や同時代性に根ざした批評活動を常に目指します。

●多様なメディア環境に直面し、いまテレビは大きな転換期にあります。地上波ローカル放送からBS・CS、CATVまで、また報道やドキュメンタリーから、ドラマやエンタテインメントまで、さらにレギュラー番組から単発の特別番組まで、幅広い視野で現代のテレビに向き合うように心がけます。

●優れたテレビ番組を選奨する活動の一環として、制作者をゲストに招いた番組上映・討論会なども積極的に開催します。「GALAC」、贈賞式、上映会を3つの柱にして、テレビ番組の批評活動の輪をより一層広げることを目指します。

2) ラジオ部門委員会の運営

ラジオの動きを側面から支える批評活動となるよう、委員全員で番組批評の質の向上と充実を心掛けます。



NPO 放送批評懇談会

第8回通常総会 2012

毎月1回合評会を開催。全国の番組を試聴し議論したうえで、今後の番組づくりへの提言、また、ラジオ業界に力を注ぐ人物やトピックスに着目します。

そして、東日本大震災、福島原発事故に関連した番組企画の情報を広く集め、取り上げると同時に、ギャラクシー賞に応募されてくる震災関連の作品について、ラジオならではの評価基準についても議論していきます。さらに、第二ステージへと入った Twitter、Ustream などデジタルツールとラジオの相互関係を引き続き考察します。これらは「GALAC」のラジオ部門のページへ反映させるものであります。

「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」は、優れた作品の紹介が制作者の活力となり、番組の向上とともにギャラクシー賞応募に繋がる重要な会と考えています。放送局の枠を越えてラジオ関係者のみならず、ジャーナリスト、メディア専攻の学生など、参加者にとってラジオの未来に繋がる意見交換の場となるように努めます。

7月7日（土）ニッポン放送イマジスタジオで、第15回「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」を開催。Twitterなどを活用し、広報活動を積極的に行います。

今後は、「入賞作品を聴いて、語り合う会」のみならず、リスナーが入賞作品をあらためて聴ける機会をどのようにしたら出来るかを模索し活動を進めていきたいと考えます。

3) CM部門委員会の運営

ギリシャから始まったユーロ危機は日本を直撃した。リーマンショックを上回るほどの勢いで経済は危機的状況に追い込まれている。広告を取りまく環境はさらなる厳しさが続くだろう。だが、震災後の混乱を経てテレビCMは、人のところに直接訴える内容が増えた。ブータンのように国民総幸福量（GNH）の考え方がCMの世界にもよみがえってきた。CM部門委員会は、ビジネスを牽引するテレビCMのパワーを尊重しつつ、良質な表現を再発掘し、生活者に寄り添い、人のところに届くテレビCMを応援していきたい。また、CM委員会発足以来、合評会は3か月に



一度の割合で催されていたが、昨今のテレビCMの放送事情に合わせて、毎月 1 回、テーマを決めて合評する方式に改革したいと考えている。

4) 報道活動部門委員会の運営

昨年度、報道活動部門の審査基準が明文化されました。

①テーマや視点の時代性、社会性②取り組みや手法の柔軟性、工夫③取材・調査の精度④活動の継続性、日常性⑤視聴者や聴取者、地域とのコミュニケーション⑥活動が生み出した成果、影響⑦放送ジャーナリズムとしての意義・意味——という 7 項目です。こうした尺度に基づいて、2012 年度も総合的な評価を行います。

今年は、ギャラクシー賞に報道活動部門が新設されてちょうど 10 年を迎えます。しかしながら、この部門が放送界に十分浸透しているかと問われれば、必ずしもそうとは言いきれません。応募する局が固定化しがちという傾向に加え、昨年度の上半期のように応募本数の減少がみられるからです。10 年を節目として報道活動部門をさらに充実させるため、出版編集委員会と連携しながら、この 10 年間の歩みを振り返り、報道活動部門は何を対象とするのか、この部門の意味や役割は何かを「GALAC」誌上で考える特集・シリーズなどを企画しています。

昨秋、4 回目を迎えた「ギャラクシー受賞報道活動を見て、制作者と語る会」については、開催費用の問題も含め運営方法を見直しながら、開催を検討しています。



2012年度企画開催事業計画

1. 2012年度は、放送の今日的課題をめぐるシンポジウムの開催をはじめ、テーマを絞ったセミナー・研究会の開催を企画・立案・実施します。また、放送批評懇談会の根幹である「放送批評とは何か」について、対外的に発信する企画を立案します。
2. 本年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成します。
委員長 碓井広義
副委員長 入江たのし
委員 兼高聖雄 永田俊和 中平良磨 藤田高弘
(ほか若干名交渉中)
3. 2012年度は、完全デジタル化時代に入った放送をめぐる様々な変動が予想されます。このような状況下で、マルチデバイス化とソーシャルメディアによる視聴スタイルの変化と放送との関係、「3.11以降」の社会・視聴者に資する望ましい放送のあり方、厳しい経営が続いている地域民放局の活路などを探っていくことが必要と思われれます。このような認識のもと、2013年3月の大型シンポジウムおよび年数回のセミナーの企画などに取り組んでいきます。
4. 事業実施にあたっての基本的方針は、以下の通りとします。
 - ①会の財政を考え当委員会の事業全体としての黒字を目指す。
 - ②他の委員会の企画との有機的な連動を図る。



2012年度マイベストTV賞

プロジェクト事業計画

1. 以下のメンバーで運営します。
プロジェクトリーダー 滝野俊一
メンバー 石橋さや夏 永田俊和
 桢山珠美 ※若干名を追加予定
事務局 中島好登
2. Web会員の登録者を増やすべく、関連サイトへの広報活動を強化します。たとえば番組の掲示板やファンサイトなどを積極的に利用し、マイベストTV賞を認知してもらうべく草の根的な活動を行います。また、さらに大学生など若年層の会員を増やすべく、大学関係者へ働きかけます(チラシ配布の協力など)。
3. Yahoo! JAPAN/GyaO!との協力を強化し、認知度のアップに努めます。また他のポータルサイトとの協力も検討します。
4. Twitter やフェイスブックなどのソーシャルメディアを活用し、会員の募集活動や広報活動を積極的に行います。
5. スマートフォン対策としてマイベストTV賞“アプリ”の作成を検討します。
6. 第7回「マイベストTV賞グランプリ」を決定し、第50回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。また、2011年にも実施した特別番組のように、毎月の候補作品に漏れていたレギュラー番組などを選考の対象に入れる試みも引き続き実施します。



2012年度50周年委員会事業計画

1. 2013年4月の放送批評懇談会創立50周年を記念する事業を統括し、推進します。
2. 下記の委員で構成します。
委員長 藤田真文
副委員長 橋本 隆
委員 入江たのし 川喜田 尚 小林 毅 小林英美
深川 章
3. 50周年記念事業は以下の通りです。
 - ① 記念出版
＜放送批評論文集＞
編集長 藤田真文
編集委員 小林 毅 小林英美 深川 章
「放送批評」「GALAC」の論文100本で構成する記念書籍を刊行します。
＜ギャラクシー賞50年史＞
担当 深川 章
「ギャラクシー賞40年史」の刊行から10年。第41回～第50回ギャラクシー賞の記録を編集し、冊子にまとめます。
 - ② ギャラクシー賞トロフィー刷新
担当 橋本 隆
ギャラクシー賞のシンボルとなるトロフィーのデザインを一新します。合わせて賞状も刷新します。
 - ③ ギャラクシー賞データベース
担当 川喜田 尚
ギャラクシー賞の記録をデータベース化し、公共の財産として提供します。
 - ④ 第50回ギャラクシー賞贈賞式、放送批評懇談会創立50周年記念事業
担当 入江たのし
第50回ギャラクシー賞贈賞式および、放送批評懇談会創立50周年の記念事業を企画・実行します。
 - ⑤ その他
その他、放送批評懇談会50周年に関わる事業を担当します。

第六号議案

放送批評懇談会

2012年度収支予算

2012年度予算案

2012年4月1日～2013年3月31日まで（単位：円）

| 科目 | 2011決算 | 2012予算 | 摘要 |
|-----------------|------------|------------|----------------------|
| I. 収入の部 | | | |
| 1. 会費等収入 | | | |
| 会費収入 | 2,478,150 | 3,000,000 | 正会員会費 |
| 維持会費収入 | 40,465,000 | 41,000,000 | 維持会員会費 |
| 2. 事業収入 | | | |
| 選奨表彰事業収入 | 28,271,904 | 28,000,000 | 参加料, 贈賞式会費 |
| 企画開催事業収入 | 1,641,000 | 3,000,000 | シンポジウム参加料 |
| 40周年記念収入 | 12,000 | | |
| 3. その他の収入 | | | |
| 出版編集事業収入 | 4,159,001 | 4,200,000 | GALAC販売 |
| 広告料収入 | 5,189,500 | 5,300,000 | GALAC広告 |
| 4. 雑収入 | | | |
| 保険解約返戻金 | | 1,573,745 | |
| 受取利息 | 67,662 | | |
| 50周年準備特定資産取崩益 | 268,442 | | |
| 当期収入合計 | 82,552,659 | 86,073,745 | |
| II. 支出の部 | | | |
| 1. 事業費 | | | |
| 選奨費 | 6,262,268 | 7,000,000 | 選奨委員会, 審査会運営 |
| 式典費 | 9,633,217 | 9,700,000 | ギャラクシー賞贈賞式開催費 |
| 企画開催費 | 2,800,288 | 2,500,000 | シンポジウム開催費 |
| 原稿料 | 6,808,548 | 7,000,000 | GALAC原稿料 |
| 編集費 | 2,906,706 | 3,500,000 | GALAC編集費 |
| 雑誌印刷費 | 16,611,983 | 16,650,000 | GALAC印刷費 |
| 発送費 | 1,682,195 | 1,700,000 | GALAC発送費 |
| 50周年事業費 | 268,442 | | |
| 2. 管理費 | | | |
| 給料手当 | 21,533,813 | 17,600,000 | 職員給与 |
| 人件費 | 1,813,350 | 3,100,000 | 契約職員, 臨時職員経費 |
| 法定福利費 | 2,954,981 | 2,400,000 | 社会保険など |
| 福利厚生費 | 233,295 | 250,000 | 職員, 委員の時間外作業飲食費 |
| 旅費交通費 | 579,980 | 700,000 | 職員, 役員交通費 |
| 通信費 | 919,153 | 850,000 | 郵便, 宅配便, 電話, ネット |
| 資料費 | 1,093,012 | 900,000 | 新聞, 雑誌, 書籍 |
| 会議費 | 319,505 | 400,000 | 理事会, プロジェクトの会議費用 |
| 水道光熱費 | 321,981 | 330,000 | 水道代, 電気代 |
| 事務用品費 | 84,142 | 100,000 | 事務用品, PC周辺機器も含む |
| 消耗品費 | 515,004 | 500,000 | コピー機使用料, 日用品 |
| 備品費 | 433,748 | 947,700 | テレビ, DVD, 音響機器, PC |
| 修繕費 | | | 修理費用 |
| 諸印刷費 | 370,721 | 800,000 | 会員名簿, 封筒, 名刺など |
| 広報費 | 468,765 | 800,000 | ホームページ運営, 他広報, 日韓中経費 |
| 支払手数料 | 230,881 | 230,000 | 振込手数料, 更新手数料 |
| 賃借料 | 3,923,265 | 4,000,000 | 事務所賃借, コピー機以外 |
| 保険料 | 918,156 | 611,796 | 職員保険(退職金補填), 火災保険 |
| 交際費 | 53,887 | 100,000 | 冠婚葬祭, 中元, 歳暮 |
| 雑費 | 737,386 | 1,000,000 | 税理士, 社会保険士 |
| 諸会費 | 115,644 | 120,000 | 友好団体加入による会費 |
| 租税公課 | 73,200 | 80,000 | 法人税, 事業税 |
| 退職給付引当金繰入 | 1,000,000 | 1,000,000 | 毎年100万円の積み立て |
| 退職金 | | 1,048,860 | |
| 予備費 | 0 | 155,389 | 予備の予算 |
| 当期支出合計 | 85,667,516 | 86,073,745 | |

2012年度予算案 特別会計

2012年4月1日～2013年3月31日まで（単位：円）

| 科目 | 2012予算 | 摘要 |
|---------------|------------|----|
| I. 収入の部 | | |
| 50周年準備特定資産取崩益 | 4,644,904 | |
| 志賀基金取崩益 | 13,355,096 | |
| 当期収入合計 | 18,000,000 | |
| II. 支出の部 | | |
| 論文集出版 | 7,000,000 | |
| ギャラクシー賞50年史 | 1,300,000 | |
| データベース | 1,500,000 | |
| トロフィー刷新 | 4,800,000 | |
| 贈賞式（拡張分） | 1,500,000 | |
| 関連イベント | 1,900,000 | |
| 当期支出合計 | 18,000,000 | |

第七号議案

放送批評懇談会

定款変更



放送批評懇談会定款変更

1. 放送批評懇談会英語表記を以下のとおり変更する。英語表記は、定款第 1 章総則第 1 条<名称>に定める事項であるため、定款の変更を行うものとする。

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

■参考

現在の英語名称 JAPAN COUNCIL FOR BETTER RADIO AND TELEVISION は、海外では悪質番組追放組織または技術系団体と誤解され、実態とはかけ離れた団体と受け止められることが多い。放送批評活動をメインとする団体であることをはっきりさせるために、名称を改める。

新名称としては ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS が最適である。当会は NPO 法人であるため、COUNCIL を ASSOCIATION と改める方が組織としてふさわしい。



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <http://www.houkon.jp/>